

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E1121020		音楽理論・作曲法基礎(編曲法を含む。)(Musical Theory・Fundamental Method of Musical composition)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	3	教育学部			氏名 清水 慶彦 E-mail shimizu-y@oita-u.ac.jp 内線											
授業の概要	楽譜の読み書き、音階と調性、作曲と編曲の方法の概論など、音楽理論の基礎を学ぶ。このことにより、音楽科教員として必要な基本的素養を身につける。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 楽譜の基本的なシステムや、音階と調性の理論など、いわゆる「楽典」の内容を理解し応用できる。																	
目標2 和声法の基礎を学び、初歩的な課題を実施することができる。																	
目標3 調性音楽における作曲法や編曲法の概要を学び、実施できる。																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 音の高さ、長さ、強さとは何か																	
2 音をどのように記述すればよいか																	
3 「音階」音の高さのヒエラルキー																	
4 「調性」音高を組織化する手法																	
5 「和音」複数の音を同時にならす																	
6 「和声」和音はどのように移り変わるか																	
7 和声法の実践(1)基本位置の三和音の連結																	
8 和声法の実践(2)和音の転回とその連結																	
9 和声法の実践(3)さまざまな「バス課題」																	
10 和声法の実践(4)属7の和音																	
11 和声法の実践(5)属7の和音の転回、根音の省略																	
12 ここまでのまとめと小テスト																	
13 音楽作品にみる和声法の実践																	
14 調性音楽における作曲法とは																	
15 編曲の方法																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	和声課題の実施や楽曲分析、編曲実践などをともなう能動的修学。					工夫	その他の									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	課題の実施等(15h)															
	事後	課題の復習等(15h)															
教科書	授業中に資料を配布する。ただし、各自で五線紙を用意すること。																
参考書	『中学校学習指導要領解説 音楽編』、『和声 理論と実習』(第1巻 島岡譲他 音楽之友社)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	授業中の課題	40%															
	授業中の小試験、試験等	60%															
	授業中の課題、小試験、試験等により総合的に評価。																
注意事項																	
備考	R2年度以降入学生については、3年次後期開講予定です。																
リンク																	
	URL																